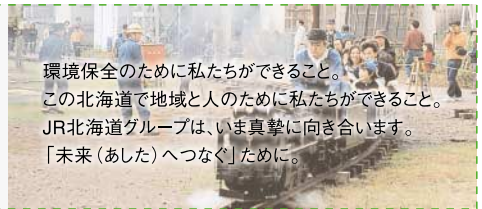


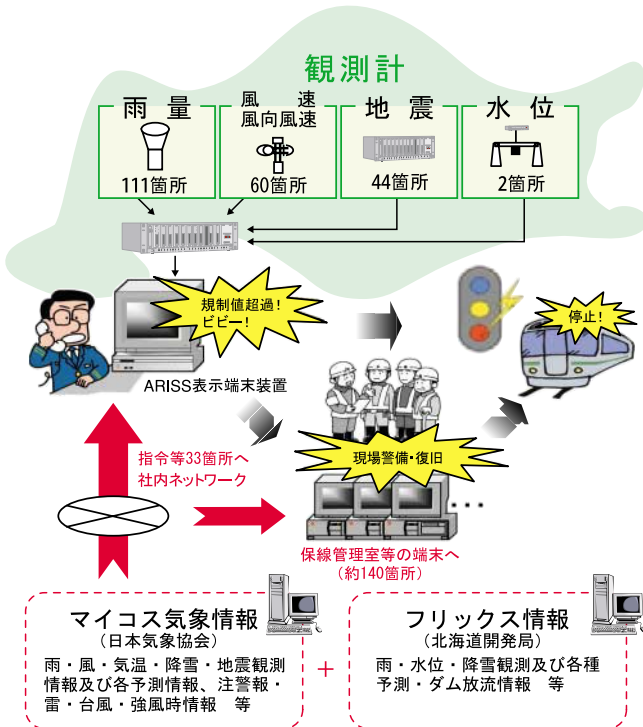
あした 未来へつなぐ

【防災対策】



環境保全のために私たちができること。
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



総合防災情報システム「ARISS」は、雨量・風向風速・地震・水位の各データを集約し、列車の運行管理に活用することでトラブルを未然に防ぐ画期的なシステム。

すべての路線を二十四時間体制で監視。 自然災害による事故を未然に防ぐための 『総合防災情報システム ARISS』

J R北海道が管轄する営業線区の総延長は約二千五百キロメートル。公共交通機関にとって最も重要な幹線、地方交通線あわせては安全・安定輸送の確保ですが、気象条件が違えば、利用頻度も異なるすべての路線をつねに万全の状態に

保つのはたやすいことではありません。車両やレールの保守整備はもちろん、自然災害に備えた対策も必要不可欠です。

平成六年二月、根室本線「広内―西新得」間で強風により特急列車が脱線する事故が発生しました。JR北

海道ではこの経験を教訓に、風速計や雨量計など全路線に設置されている観測計の情報を集約し、ネットワーク化に着手。その結果、翌年の平成七年七月に、ARISS(アリス)と呼ばれる『総合防災情報システム』が誕生し、全道各地の気象状況を二十四時間体制で監視するシステムが整備されました。平成十五年のリニューアルにより、視認性・操作性・データ蓄積機能が格段にアップ。現在、雨量、風向風速、地震、水位など観測計の設置カ所数は計二百七カ所に上り、きめ細かい監視体制が敷かれています。

それらの観測計からリアルタイムに送られてくるデータは、各指令所をはじめ全道三十三カ所で見ることができ、風速や雨量などが規制基準値を超えたときには自動的に警報が鳴り、警備や運転規制が必要な区間などを知らせてくれます。

日本気象協会のマイクス気象情報や北海道開発局のフリックス雨量情報などの閲覧もでき、それらの情報と各路線の状況を照らし合わせることで、早期に対策を練ることが可能になりました。しかも、社内LANを利用しているため、専用端末がない部署でもパソコンで閲覧することができ、危機管理体制もいっそう強化されています。

強風などにより列車の運行を規制するのは、事故を未然に防ぐために必要な措置です。ただ、お客さまを足止めすることになるため、そうした事態を最小限に止めることも公共交通機関としての使命のひとつ。

ARISSで得たデータをもとに、運転規制の減少に役立つよう防風柵を設けた路線もあり、今後もARISSを有効活用し、より安全で安定的な鉄道輸送の提供に努めていきます。

※ARISSは、Advanced all-Round Information System for Safetyの略称